

「ロボタがこわれちゃった」 別冊付録

保護者様のでびき



おもちゃも歯もお子さまにとっての大事なものの
絵本とともに今日から実践

歯の絵本 ものを大切にする習慣 5つのコツ

絵本「ロボタがこわれちゃった」は、ストーリーを通して、お子さまの「歯を大切にする心」をテーマに編集されています。
絵本読み解きの際のポイントをまとめました。

モノを大切に する心。 それは自らの歯を大切にすることにもつながります。

ベビー用品でも、子供用品でも、使い捨ての商品は数多く、大量生産、大量消費時代の現代の子育てにおいて、お子さまにモノを大切に
する心を持ってもらうのはそうたやすいことではないかもしれません。

便利な世の中になった一方で、「おもちゃを大事にしてくれない」といった親御さんのお声もかつての時代よりも増えているのではないのでしょうか？

モノを大切に
する態度＝「歯」を大切に
する習慣

おもちゃも歯もその子にとっての大事な所有物。
なくさないように、壊れないように、大切に扱うことは、責任をもって管理すること。

そんな大切な習慣を身に着けてもらうには・・・。

それにはちょっとしたコツがあります。

①名前をつける。持ち物に名前を書く。



モノに名前をつけると、付ける前にくらべて、そのモノを大事に扱うようになったという話があります。名前をつけられなくても、名前を書いたり、シールを貼ることで、自分の所有物であることを意識させることにつながります。

絵本で登場する「ロボタ」。この名前こそが「ぼく」にとってかけがえのないものであるあらわれといえます。

②ヒトの本能的特性を理解して上手に生かす

こんな実験があります。

子供に、お気に入りのぬいぐるみを持ってきてもらいます。そのぬいぐるみと全く同じ商品の新品を渡し、どちらかを選ばせると、古い方を選びます。

一緒に過ごしてきたという「意味」をそのおもちゃに見出しているからだといわれます。例えそれがこの絵本のように「壊れている」としてもです。

ヒトがモノに意味を見出す特性。

この意味とは「愛着」とも「ストーリー」とも言い換えられます。本来備わったそんなヒトの特性を上手に尊重してあげることこそ、ひいてはお子さま自身のモノやカラダを大切にしつづける人生につながります。



③壊れた時にこそ

壊れたおもちゃを簡単に捨てないのもひとつ。
その習慣こそがモノを大事にしてもらえる第一歩です。

「壊れたら買ってもらえる」と思わせないようにするには、
壊れたものに対する親御さんのちょっとした態度がポイントです。

④「叱る、注意する」から「ヒントを与える、一緒に考える」へ



おもちゃが壊れたら、壊さないように叱るばかりではなく、
どう扱えば壊れないようにすればいいのか？ヒントを与えることも大切です。

また絵本では、その後も使い続けるためのヒント(修理してもらうこと)を
思いつきましたが、そうした一緒に困り、一緒に考えてみる態度も大切です。

⑤ 親御さんがお手本に

親御さん自身が普段からモノを大切にすることで、よいお手本になりましょう。

古いものに囲まれたおじいちゃんの暮らしこそが実際にそれを体現しているよい例ですね。
歯も同様に、家族みんなで、健康についての高い意識を持って過ごすことが大切です。



後日談 ～Epilogue

おじいちゃんにロボタを修理してもらった主人公「ぼく」はすくすく育っていった。

その一方で、歯医者さんへのお供も、就寝時の添い寝もお役御免となり、やがてロボタとの時間は少しずつ減っていった。

でもそののちも「ぼく」の心の支えとなりつづけた。
なぜならこのロボタは、大切なことを教えてくれた友達なのだから。

数十年後、「ぼく」は工学エンジニアになり、ある歯科医療の装置の開発に携わった。そう、その装置こそ、むかしおじいちゃんとロボタが教えてくれた、大切なことがつまったものだった。

歯の詰め物が、もっと便利に身近になって、
自分の歯をずっと大切に思い続けてくれる患者さんが、
この国に増えるといいなあ…。

ロボタと一緒に過ごした日々を思いながら、そんなことを考えていた。



「歯科用CAD/CAMシステム」をご存知ですか？

自分の歯をコンピュータで
つくれるようになるってホント？

進む！広がる！歯のテクノロジー

つづきは、[「歯のきょうしつ」](#)でチェック